

# JAERA

# NEWS LETTER

一般社団法人日本自動車リサイクル機構 ニュースレター

- 巻頭言 / 2020 年度 第 1 回常任役員会… P1
- 2020 年度 新たな機構運営体制と事業活動について（酒井代表理事から会員の皆さまへ）… P2
- 2020 年度自動車リサイクル高度化財団事業受託 … P3
- 新型コロナウイルスの影響を受け、事業継続のための地域活動紹介 / 新車販売台数と使用済自動車発生台数… P4
- 鉄スクラップ最新情報 … P5 □行事予定・お知らせ / 編集後記 … P6

vol. 135

## 2020 年度 第 1 回常任役員会

# 01

新型コロナの影響を受け、これまで開催が延期されてきましたが、今年度最初の常任役員会を TV 開催いたしました。常任役員が画面上で顔をそろえ議事次第に沿って論議いただきました。当日の主な議題は、以下の通りです。

### 【主な議題】

- (1) 定時社員総会に向けての確認
- (2) 2020 年度自動車リサイクル士認定講習会の開催について
- (3) 自動車リサイクル高度化財団の事業報告
  - ・ 2019 年度ベースリサイクル実態調査の進捗報告
  - ・ 2020 年度自動車リサイクル設計事例集の製作・展開の採択報告
- (4) 新型コロナの自動車リサイクル業界への影響について
  - ・ 地域ブロック長へのヒアリング結果報告
- (5) 自動車リサイクル団体合同賀詞交歓会の開催について

今年度の定時社員総会は、新型コロナウイルスの感染拡大防止と皆様の健康と安全を考慮し、必要最小限の出席者で執り行う予定をしており、当日の出席者や議決方法など、総会に向けた準備の確認を行いました。

今年度計画の事業活動については、感染予防対策を講じながらの事業活動となることから、自動車リサイクル士制度は、リサイクル技術部会から実施に向けた提案として、サテライト方式での更新講習会が承認され、実施に向け課題改善に取り組むことになりました。

最後に自動車リサイクル業界が置かれている環境の情報共有が図られ、今後の機構活動について議論されました。詳細は今後のブロック長会議等で報告いたします。



※TV 会議による常任役員会

## 巻頭言

このニュースレターが発行される頃にはほとんどの都道府県で緊急事態宣言が解除され、「アフターコロナ」「ウィズコロナ」の段階で、解体車の入庫がどうなっていくのか大変気になるところです。

広報部会では今月号から新車の販売台数、使用済み自動車の発生台数の最新情報をお届けします。この表をみますと、今年の 4 月の引取工程台数は 304,762 台、前年同月比で 3% のマイナスです。

勿論、全国で諸事情は異なるかと思いますが、4 月の自社の入庫台数が 3% 以上のマイナスになっている場合、コロナ「以外」の影響も考えられ、そのような指標として役立てていただければ幸いです。

〈広報部会 小宮山 敬仁〉

### 《編集・発行責任者》

一般社団法人日本自動車リサイクル機構  
広報部会長 永田 則男

### 《お問い合わせ先》

一般社団法人日本自動車リサイクル機構  
〒105-0004  
東京都港区新橋 3 丁目 2 番 2 号  
TEL: 03-3519-5181  
FAX: 03-3597-5171  
MAIL: jaera-homepage@elv.or.jp  
H P: http://www.elv.or.jp/

## 酒井代表理事から会員の皆さまへ

平素より機構の活動に、ご理解とご協力を賜り深く感謝申し上げます。

経験のないこの状況下で先行きへの不安が大きくなりますが、何にも増して会員のみなさま自身が健康なことが大切です。気持ちを緩めずに行きましょう。

さて、今年度の総会は、感染防止の観点から、総会並びに会員交流会は中止といたしました。会員の皆さまと直接お会いする機会を持たないことから、本稿にて総会資料について少し説明をさせていただきます。

昨年度は、事業計画提案したものは全て取組みを実施いたしました。特に業界としての課題であった、団体の一本化という点で、今年度よりリサイクル部品協議会、JTP に団体会員として加盟していただく形で前に進めることができました。

ダスト処理問題等についても、行政や関係業界団体と協議の場を設け、自動車リサイクル業界として改善要請を行うなど諸課題に対して継続的に取り組んでおります。事業収支に関しましては、残念なことに会員数が若干減少し会費収入が予算を下回る結果となりましたが、共同出荷事業や高度化財団事業に取り組む事業収益を確保したことで黒字化できました。

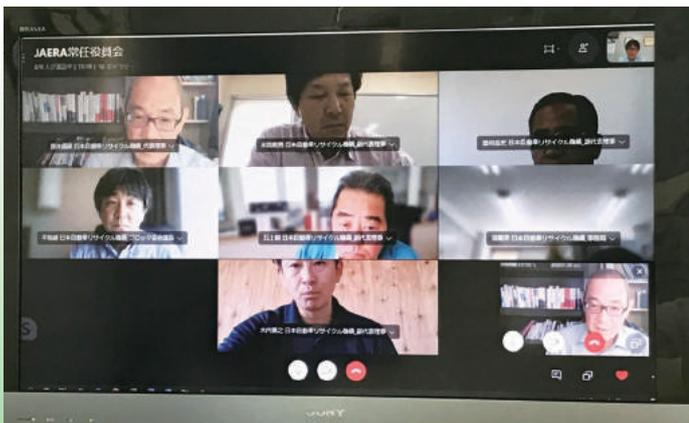
2020年度は、将来を見通した長期的、全体的視点と、現在の問題を解決していく短期的、個別的な視点を持った事業計画といたしました。その視点を持って審議会対応や、自動車リサイクル士講習会、共同出荷事業、高度化財団事業などに取り組んでまいります。

また、会員の皆さまより、よりシンプルで機能的な組織が望ましいとの声がありましたことから、これまで組織名称の変更、支部制度の導入と、この数年間に組織の見直しを進めて参り、今年度は役員の変更期でもあり、顧問、相談役の皆さまが退任されることとなりました。

顧問の北口さん、相談役の栗山さん、榎本さん、清水さん、河村さんの皆さまには、自動車リサイクル法以前から大変ご苦労いただいて現在の形を作っていただきました。本来であれば、総会の場にて皆さまに登壇いただき感謝のお礼を申し上げたいのですが、このような形での報告になることをお許し下さい。また監事を長く努めていただきました寺谷さんも今回で退任され、新たな監事を石上さんに就任していただくことにいたしました。

最後に、全国の地域で緊急事態制限が解除となりましたが、まだまだ感染予防制限下での事業活動となります。新たな体制にて引き続き自動車リサイクル業界の置かれている状況改善に努めてまいりますので、ご支援のほどよろしくお願いします。

一般社団法人 日本自動車リサイクル機構  
代表理事 酒井 康雄



## 解体業者とメーカーの連携強化に向けたリサイクル設計事例集製作

日本自動車リサイクル機構は、公益財団法人自動車リサイクル高度化財団（略称「J-FAR」）より事業を受託し、自動車の解体段階における「自動車リサイクル設計」を生かした効率的な解体事例の実態調査を実施します。この調査の一環として日本自動車リサイクル機構会員の皆様にアンケート調査やヒアリング調査を実施いたしますので、ご協力をお願いいたします。

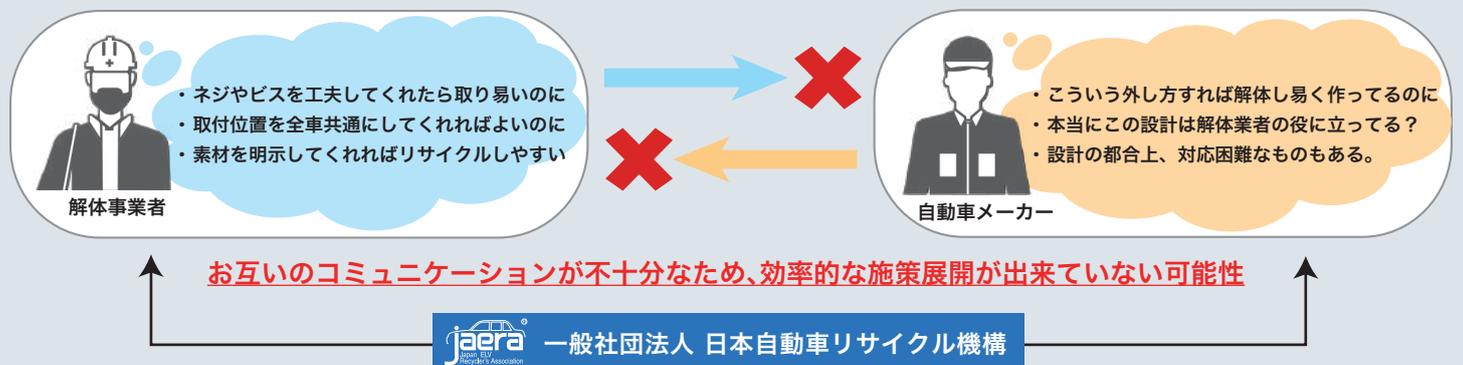
### ■背景・目的

自動車リサイクル業界は、効率的な自動車の解体・適正処理を目指して取組みを進めておりますが、資源の有効活用を求める世論は一層の高まりを見せており、さらなるリユースの促進及びリサイクルの高度化を目指して、取組みを加速することが求められております。

こうした環境の中、自動車メーカーでは、2000年頃からリサイクル配慮設計に取り組んできており、近年このような取組が反映された使用済み自動車の発生が増加していることが推測されますが、必ずしも解体業者へ十分に認知されておらず、自動車リサイクル設計によって効率的な解体作業が可能となっているものの、その成果が活用されていないケースや、また、設計上の都合で非効率な解体作業を求められる事例も散見されています。

このような状況は、解体業者と自動車メーカーが十分に結びついてこなかったことが原因と考えられ、本事業では、自動車リサイクル設計の事例集製作をきっかけとして双方の情報共有を促進することで、より高度かつ効率的な自動車リサイクル設計の実現を目指し、資源循環の社会的な要請に答えるだけでなく、使用済み自動車の価値や下取り車両価値の向上、ASR削減に伴うリサイクル料金低減も期待できるほか、持続可能な自動車リサイクル産業の発展に資することを目的に取り組めます。

- 易解体設計の普及、解体性向上には**解体事業者と自動車メーカーのコミュニケーション**が不可欠
- 事例集を作成することでコミュニケーションのきっかけとし、**JAERAが双方のコミュニケーション窓口**に
- 当初はJAERA会員および日本自動車工業会を中心にコミュニケーションを図るが、**将来的には対象拡大**も検討



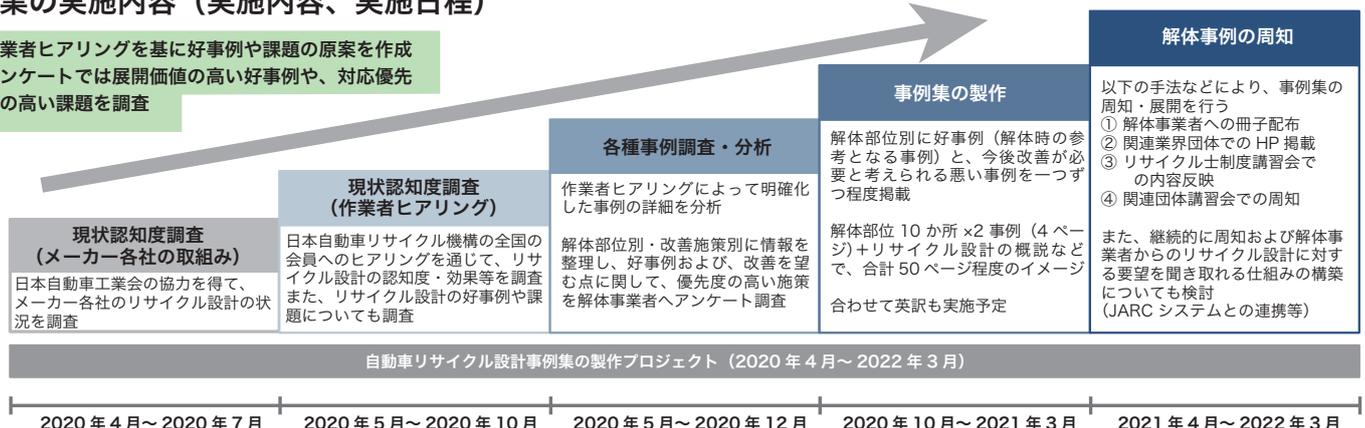
お互いのコミュニケーションが不十分なため、効率的な施策展開が出来ていない可能性

JAERA会員（約470社）や提携団体を中心に、会員外も含めたアンケート、周知活動を実施

解体業界を代表する業界団体として、解体業者の要望を伝え、有効な対策を提案

### ■事業の実施内容（実施内容、実施日程）

- ① 作業者ヒアリングを基に好事例や課題の原案を作成
- ② アンケートでは展開価値の高い好事例や、対応優先度の高い課題を調査



# 新型コロナウイルスの影響を受け、 事業継続のための地域活動紹介

# 04

## 宮城県中古自動車解体再生部品卸協同組合 理事長 平地 健

機構広報部会で3月に行われた「新型コロナウイルスの影響調査」アンケート結果を見ると、全国で在庫減少、部品販売の減少、輸出に関してはバイヤーが来ないため大幅な減少、更に鉄スクラップ価格の低下という状況で、宮城県においても4月の緊急事態宣言後はさらに悪化し、組合員からも事業活動の停滞を聞き、組合として何かできないか、取り急ぎ情報集約を実施し、打開策の検討を行いました。

組合員から「輸出の停止により販売先がない、価格も下落」など部品在庫が積みあがって収入源が滞っている状況が顕著になりました。

このため、部品の種類・数量など調査し、そのリストを基に組合で共同出荷出来ないか、新規販売先がないか販路の調査を行い「集約による共同出荷トライアル」を実施することに至りました。

共同出荷に参加された方々は、新たな販売先、販売価格、販売品目などのニーズや様々な体験をされ、解決の糸口が見えたとの意見もありました。今後、今回のトライアルの課題改善に努め、多くの組合員が参加できるような仕組みとし、現在の厳しい環境を組合員全員で乗り越えていきたいと取り組んでおります。

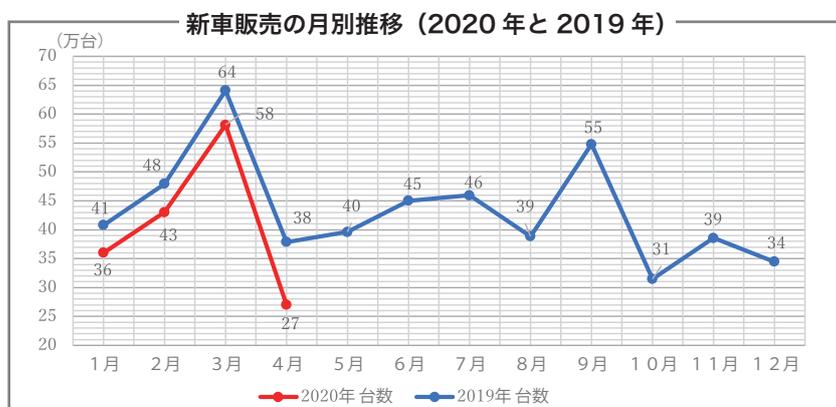


# 新車販売台数と使用済自動車発生台数

# 05

## 2020年4月度新車販売台数

270,391 台 前年同月比 71.4%



年累計	台数	前年比(%)
2020年(4月まで)	1,642,099	86.1
2019年	8,483,399	98.5
2018年	8,637,156	100.7
2017年	8,535,706	105.3
2016年	8,145,573	98.5

※出所：一般社団法人 日本自動車販売協会連合会

## 2020年4月度使用済み自動車引取 (電子マニフェスト) 実施状況

引取件数  
304,762 件 (前年同月比 97%)  
フロン回収工程  
279,746 件 (前年同月比 95%)  
解体工程  
321,931 件 (前年同月比 95%)

## 2019年度 (2019年12月～2020年3月及び2019年度合計)

	2019年12月		2020年1月		2020年2月		2020年3月		年度合計	
	件数	前年同月比	件数	前年同月比	件数	前年同月比	件数	前年同月比	件数合計	前年度比
引取工程	268,700	97.7%	238,756	100.6%	253,493	96.4%	337,694	95.4%	3,362,224	99.5%
フロン回収工程	240,293	98.7%	215,369	101.0%	224,329	95.8%	298,012	95.6%	3,016,237	99.8%
解体工程	278,627	98.7%	251,403	100.6%	261,283	96.6%	339,485	96.6%	3,493,479	99.5%

※出所：公益財団法人 自動車リサイクル促進センター

## 5月第4週(21日)の鉄スクラップ動向



## 5月21日の国内スクラップ炉前実勢価格(中心値)

		H2	気配
関東	北関東	19,000～21,000	値上がり
	南関東	19,000～21,000	値上がり
名古屋		17,000～18,500	様子見
関西	大阪	19,000～20,500	様子見
	姫路	18,000～19,000	様子見

## 国内の鉄スクラップ市場、東日本電炉の値上げ広がる

市中スクラップの発生・荷動きの低迷や輸出価格の続伸を受けて、東日本電炉の間に鉄スクラップ購入価格の値上げ改定が広がっている。東北、新潟、関東市場で、電炉筋の建値や実勢価格の値上げ改定のほか、スポット手当てなどの動きが出ている状況。東日本の3市場で底入れ反発の動きとなっている。

東日本市場では、北海道電炉が様子見の姿勢を崩していないものの、東北、新潟、関東電炉の間に、品種別の対応も含め購入価格を1トあたり500～1,000円どころ値上げする動きが広がっている。電炉各社は減産を実施しており鉄スクラップ需要量は減少しているものの、それ以上に市中スクラップの発生・荷動きが少ないためだ。そうした状況の中で輸出価格が続伸したことを受けて、市中に相場動向を様子見する機運が広がったことで市中の発生・荷動きが落ち込み、さらに需給を引き締める状況となっている。

関東市場では活発な船送りを背景に浜値が続伸。電炉買値を上回る水準となっているため、電炉筋も価格対応を余儀なくされている。国内電炉に慎重な姿勢も多いが、全国的に見ても新型コロナウイルスの感染拡大による景気悪化などを背景に市中スクラップの発生・荷動きは薄く、各地区で品薄感が台頭し始めている。

## 【関東地区】 電炉筋が引き合い強める動き、浜値続伸し先行高

関東市場の電炉各社は、鉄スクラップ入荷にバラつきが出ていることから、購入価格を引き上げて引き合いを強める動きが広がっている。5月21日時点の関東市場のH2炉前実勢価格は19,000～20,000円中心だが、高値は20,500～21,000円まで出しており、「実質的にH2を2万円以下で集荷するのは難しい」（電炉筋）という状況だ。浜値は電炉買値と同水準で推移しており、同日時点のH2浜値は21,000～22,000円中心へと続伸している。

## 【東海地区】 様子見商状続く コロナ影響で扱い量を落とす筋も

名古屋地区の鉄スクラップ市況は、5月入り後3週間が経過した現在もなお様子見商状で推移している。域内の発生状況は、5月は大型連休があったため稼働日数も少なく減少傾向にある。しかし、新型コロナウイルスの影響によって経済活動は甚大な被害を受け、連休後も回復の兆しが見えてこないどころか、場合によってはさらに扱い量を落とす筋も見られる。5月21日時点のH2炉前実勢価格は17,000～18,000円中心、高値18,500円。

## 【関西地区】 様子見ムード、電炉は入荷底上げに消極的

大阪地区の鉄スクラップ市況は様子見ムード。湾岸向け出荷が電炉入荷に歯止めをかけている状態に変わりはないが、電炉需要の停滞下で入荷底上げには消極的な意向を示したままにあり、反発ムードは後退へ向かっている。また姫路以西との価格差を背景に、海上および陸送ともに府外玉を調達しやすい状況も上値を重くしている。5月21日時点のH2炉前実勢価格は、大阪地区が19,000～20,500円中心。姫路地区が18,000～19,000円中心。

(※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、5月21日午前時点のもの)

June

## — 6月の主な行事予定 —

### ■ 6月9日(火) 第3回 広報部会

※テレビ会議の予定

※急遽、日程の

変更・延期の場合がございます。

### ■ 6月10日(水) J-FAR事業 最終報告会

※テレビ会議の予定

### ■ 6月18日(木) 日本自動車リサイクル機構 定時社員総会

※既にお知らせのとおり、新型コロナウイルス感染予防対策として、  
必要最小限の人員での開催

## お知らせ

### 新車販売台数と使用済自動車発生台数に関する詳細資料のご案内

会員の皆様からの要望がございました「新車販売台数と使用済自動車発生台数」につきまして、本号、4ページに掲載しました統計の参考情報リンク先をお知らせします。どうぞご活用下さい。

#### 【参考リンク】

一般社団法人 日本自動車販売協力連合会 <http://www.jada.or.jp/>

※統計データ月別統計データ新車・月別販売台数（登録車）

→ <http://www.jada.or.jp/data/month/m-r-hanbai/>

公益財団法人 自動車リサイクル促進センター <https://www.jarc.or.jp/>

※2020年度都道府県別引取（電子マニフェスト）実施状況

→ <https://www.jarc.or.jp/data/index/>

## 編集後記

江戸時代の禅僧、良寛和尚の名言に「災難に遭う時節は災難に遭うがよく候、死ぬ時節には死ぬがよく候、是はこれ災難を逃れる妙法にて候」とあります。このような時節に不適切な言葉のように感じられる方もおられるかもしれません。しかしながら良寛和尚は「これ災難を逃れる妙法」と説いていらっしゃる。

つまり、これさえ知っていれば災難から逃れることができると仰っています。1828年に新潟県三条市で大地震が発生しました。この大地震によって良寛和尚と懇意にしている俳人の子供が亡くなりました。「災難に遭う時節は・・・」は友人である俳人に宛てた見舞いの一文です。そんな最中の言葉ですから何かしら深い意味があるに違いありません。

日本経済はいまコロナ災禍によって没落し、まさに正念場にあります。自動車リサイクル業界も例外ではありません。この非常時に大事なことは現実を受け入れる心構え。まさしく良寛和尚が説諭された「災難に遭う時節は災難に遭うがよく候、死ぬ時節には死ぬがよく候、是はこれ災難を逃れる妙法にて候」、どことなく繋がる気がします。

(広報部会 部会長 永田 則男)